

2. 令和8年度の研究主題・副題・設定の理由

研究主任としての令和8年度の願い・思い

学校研究だけでなく、カリ・マネも含め全ての指導部が**連動・連携**して「笠野マイプラン学習」をつくりあげていきたい。その思いは、校長先生の思い・願いである「安心・安全な学校」の姿として表していきたい。

★研究主題・副題★

研究主題 主体的に学び、共に高め合いながら粘り強く表現する子の育成

副題 ～学びや思いを自分の言葉で語れる授業づくり～

共に高め合いながら…児童同士／児童と教師／教師同士 対話等を通じた授業力向上
粘り強く表現…最後まで表現(話す・聞く・書く・読む 教科横断で)しきる。自分らしく。

諦めないで何度も試行錯誤しながらゴールに向かっていく姿を認め・褒めつつ、
ゴールして達成感を味わう

令和8年度の研究主題および副題は、これまでの研究成果と課題を踏まえ、児童が自律的に学びを深め、互いに高め合う姿を目指して設定した。以下に、その設定理由を示す。

2-1. 研究主題「主体的に学び、共に高め合いながら粘り強く表現する子の育成」の設定理由

この主題は、本校が推進してきた「子供を主語にした授業づくり」をさらに発展させ、学校経営ビジョンである「J(自分から)・M(みんな一緒に)・S(最後まで)+1(命をまもる)」を具現化するために設定した。

「主体的に学び」の追求(J:自分から)「主体的に学ぶ」とは、児童が自ら問いをもち、学習の見通しを立てて自律的に進める姿を指す。

- 令和6・7年度の研究を通じて、単元の導入で児童の「～たい」という思いを引き出す工夫(単元デザインシートの活用やストーリー性のある導入)により、児童が自律的に学びを進める姿が見られるようになってきた。この「自ら問いをもち、解決の見通しをもって取り組む姿」をさらに確かなものにするため、引き続き主題の柱として据えた。

「共に高め合いながら」への深化(M:みんな一緒に) 単なる協力にとどまらず、対話を通じて考えを広げたり深めたりする姿を指す。

- これまでは教師が意図的に「協働」を仕組んできたが、実践を重ねる中で児童から自然と「友達と話したい」という声上がるようになった。令和8年度は、単に協力するだけでなく、児童同士、あるいは児童と教師、教師同士が「対話」を通じて、より質の高い学びへと互いを高め合っていく姿を目指していく。
- 互いを認め合い、高め合える関係性は、校長先生の方針である「命を大切にする」という人間尊重の精神を、日々の授業実践(対話)の中に位置付けるものと言える。

「粘り強く表現する」の強化(S:最後まで)「粘り強く表現する」姿とは、児童が諦めずに何度も試行錯誤しながらゴールに向かっていく姿を指す。

- これまでの研究では、児童が目的意識をもって最後まで学び合いを進める成果が得られた一方で、教師が過剰に関わってしまい、児童が自ら試行錯誤する時間を奪ってしまうという弱点も明らかとなった。そのため「諦めずに何度も試行錯誤しながら、自分らしく最後まで表現しきる姿」を認め、達成感を味わわせることを重視していく。
- このような試行錯誤を可能にするためには、失敗を恐れずに自分らしく表現できる「安心・安全」な土壌が必要。
- 児童が自分らしく表現しきり、達成感を味わえる環境を整えること自体が、「安全・安心な学校」の具現化に直結する。

2-2. 副題「学びや思いを自分の言葉で語れる授業づくり」の設定理由

この副題は、個別最適な学び(笠野マイプラン学習)と協働的な学びを往還させる中で見えてきた、具体的な学習スキルの定着と表出の課題を解決するために設定した。

- **基礎・基本の確実な定着と「説明」の必要性** 「笠野マイプラン学習(単元内自由進度学習)」において、楽しさはあるものの、教科の用語や定義といった「基礎・基本」の定着に不安が残るという課題が挙げられた。この解決策として、「教科の用語等を用いて説明する活動」を必須とするなど、単元デザインを工夫し、知識を「自分の言葉」として定着させる必要がある。
- **「表現」の質の向上** 児童が学んだことを整理・分析し、目的や意図に応じて『自分の言葉』でまとめ、相手に効果的に伝える力を育むことを目指している。教科横断的に「話す・聞く・書く・読む」力を通じて、自分の学びの軌跡や思いを語れるようにすることが、深い学びに直結すると考えられる。

令和8年度の学校研究は、これまでの「児童に学びを委ねる」取り組みを基盤としつつ、「対話による高め合い」と「試行錯誤を繰り返す粘り強さ」を加え、それらを「自分の言葉で語る」ことで確かな学力へとつなげていくことを意図している。これにより、全指導部が連携して、校長の願いである「安心・安全な学校」の姿を、授業を通じても体現していくことを目指していく。

3. 研究主題・副題を達成するための共通実践及び確認事項

これらの共通実践は、校長先生の掲げる「安心・安全な学校(失敗を恐れず試行錯誤できる環境)」を授業の側面から具体化する手立てとして位置づける。

3-①. 単元デザインの工夫(児童に学びを委ねるために)

児童が自ら問いをもち、見通しを持って学習を進めるための仕掛けを重視

- **単元デザインシートの活用**: 児童と教師が共に学習の見通しをもてるよう、単元のゴールや「付けたい力」を可視化し、児童に示す。
- **「ワクワク感」のある導入**: ストーリー性のある導入や、学習のモデル(お手本)を提示することで、「自分もやってみよう」という意欲を引き出す。
- **情報の開示**: その単元でどのような問題が解けるようになるべきか、どんな力を付けるのかなど、ゴール地点を明確に共有する。
- **学習プレートの活用**: 笠野の伝統継承 将来の「わたり」への素地。プレートについては、別紙資料参照。

- ・学習ガイドマニュアルの活用:笠野の伝統継承 将来の「わたり」への素地。ガイドマニュアルについては、別紙資料参照。

★→「カリ・マネの柱」と連動し、「笠野マイプラン学習」以外でも「年間指導計画一覧表」に朱書きした単元は、「単元デザインシート」を作成する(別紙参照)。

3-②. 自分の学びを語れるようになるための工夫

学んだ内容を知識として定着させるだけでなく、メタ認知(自分の学び方を把握すること)を促す

- ・説明活動の必須化:笠野マイプラン学習において懸念された基礎・基本の定着不足を解消するため、「教科の用語や定義を用いて説明する活動」を意図的に組みこむ。
- ・振り返りの視点の明示:「学んだこと」だけでなく、「学び方のこと」「友達から学んだこと」といった多角的な視点で振り返りを行い、自己の変容を自覚化。
- ・対話の場の確保:笠野マイプラン学習中であっても、全体で向き合い、互いの学びを語り合う「共有の時間」の確保。

★→タイムマネジメントを意識し「自分の学びを語る(いろいろな方法で)」時間を確保する。

3-③. 学習環境の工夫(多様な選択肢と準備)

児童が自分の目的に合わせて、最適な学び方を選べる環境を整える。

- ・多様な選択肢の提供:学習場所、学習形態(一人か友達とかなど)、学習内容(必須課題と選択課題)などを児童が自己決定できるように準備。
- ・「使うかもしれない」を想定した準備:児童が知りたい時にすぐ調べられるよう、図書、インターネット、副読本、リーフレットなど複数の資料を事前に吟味して配置。
- ・導線の配慮:教材・教具、児童を「箱から出す(教室から出す)」など、児童が迷わず手に取れる配置を工夫。

★→学びのフィールドを「教室」→「学校全体」と捉え、児童の柔軟性を受け入れ、授業の準備を!

3-④. アナログ×デジタルのベストミックス

デジタルツールの利点を生かしつつ、アナログと効果的に組み合わせる。

- ・オクリンクプラスの活用:「みんなのボード」で毎時間の板書を共有するなど、いつでも振り返りができるようにする。また、カードの色を共通化(赤:提出物、青:ヒント、黄:解説動画)し、視覚的な分かりやすさを高める。
- ・個別と協働の往還:端末を通じて他者の考えを「途中参照」したり、必要な時に必要な相手と協働したりする複線型の授業を展開(4. めざす子供主体の授業参照)。

★→デジタル活用・・・「まず、毎日立ち上げる」→「毎日決まって使うものを決める」→「1日1時間は電子黒板中心の授業にしてみる」→・・・システム化/ルーティン化して、使う努力をっ!

3-⑤. 教職員が研究を自分事とするための工夫

教師自身が「学びの主演」となり、チームで授業改善に取り組む。

- ・1人1テーマの設定:全教師が自ら研究したい「学校研究に関わる課題(教科とテーマ)」を設定し、「子供の姿」を通じてその成果を検証する。テーマは、共通実践①～④から選択してもよし。共通実践とは別に自分なりのテーマ(学校研究には沿っているもの)を設定して取り組むもよし。
- ・研究授業の日常化(フラツと参観):特定の研究授業を廃止するかわりに、年間を通して互いの授業を自由に参観し合い、コメントを送り合う「相互伴走型」の研究体制を構築する。(重点参観期間を設定予定)
→職員室に張り出す→いつでも見に行けるようにする
→Google chat にコメントを書いて、教師同士もよいところを褒めたり認めたりし合って、授業力向上!
- ・意識の転換:「どう教えるか」ではなく「子供がどう学ぶか(子供たちにどう学んでもらうか)」に主眼を置き、一人の教師が抱え込まずに職員室全体で対話しながら一つの授業をつくり上げていく。Google chat の活用。

4. 研究方法

① 普段の授業で共通実践を意識しながら教育活動に取り組む。

→ 週案に共通実践を位置づけ、その都度振り返りを記入する。週案の書き方については、後日提案。

② 月1回の振り返り(スプレッドシート)及び職員会議での1か月の成果と課題を出し合い、話し合っ
て次月にいかせるようにしていく。

③ 1学期は、1人1回以上、授業(マイプランでも OK)の公開(学校訪問前)

→ 学校訪問を除く、細案授業の廃止。簡易的な授業構想シート(仮)の作成。

→ 授業構想シートを書き、事前研→授業公開→事後研

→ 1人で授業を考えるのではなく、職員みんなで対話し、1つの授業をつくっていくために行う。

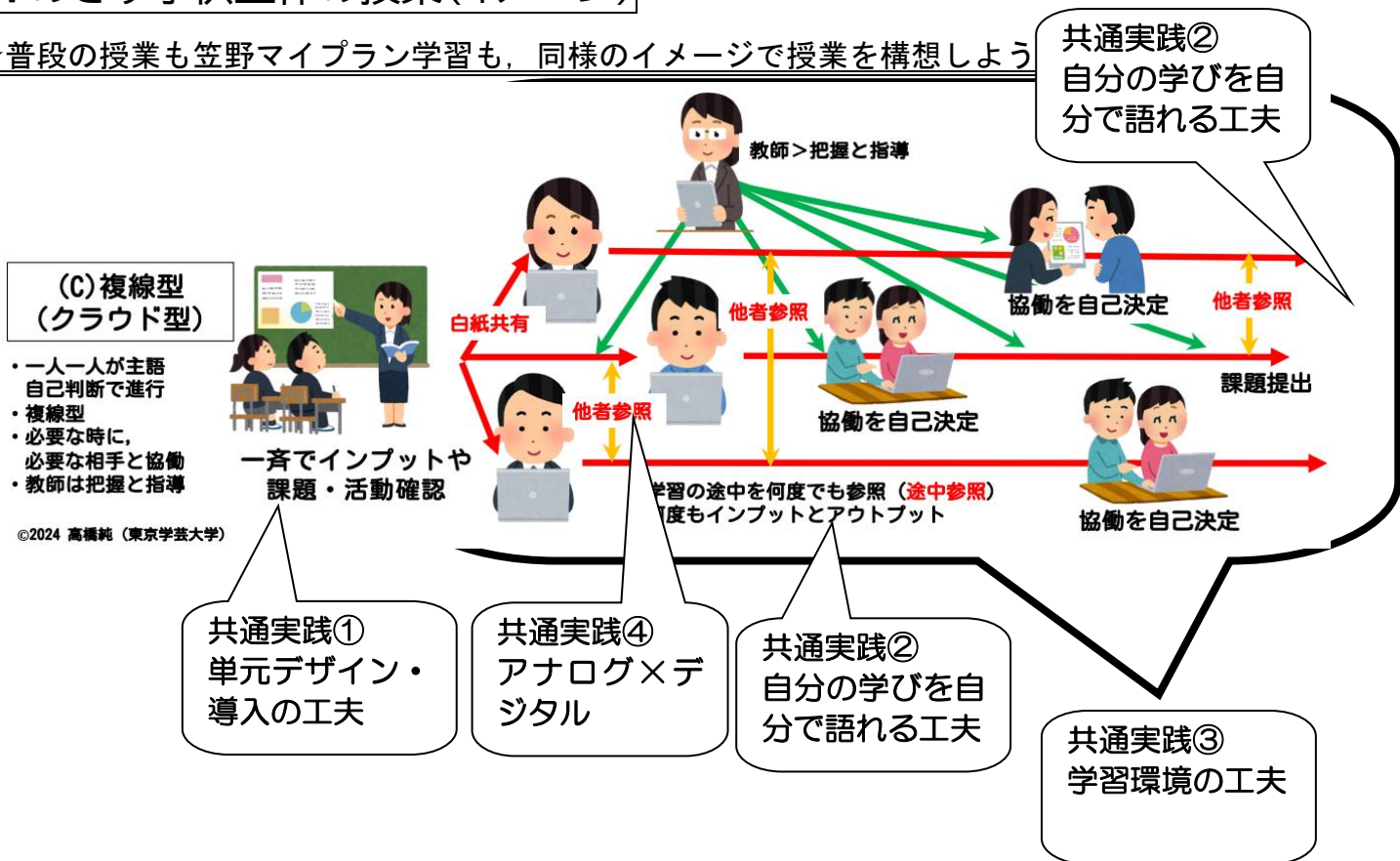
④ 2学期(10月~11月)・3学期(1月~2月)は、笠野マイプラン学習の公開を行う。

→ 笠野マイプラン学習では、(1)単元デザインシートと学習の手引き(必要に応じて) (2)学習計画表&振り返り表 (3)児童が自走できる準備物(オクリンクプラスのカードやワークシート、解説付き動画、周辺の学習環境整備等)(4)発展学習用の課題 (5)チェックテスト (6)単元導入用資料(ガイダンスで魅力を!) (7)児童の様子が見える黒板の掲示物(マイプランの目的、A、B・・・チェックテスト等)などの準備をお願いします。

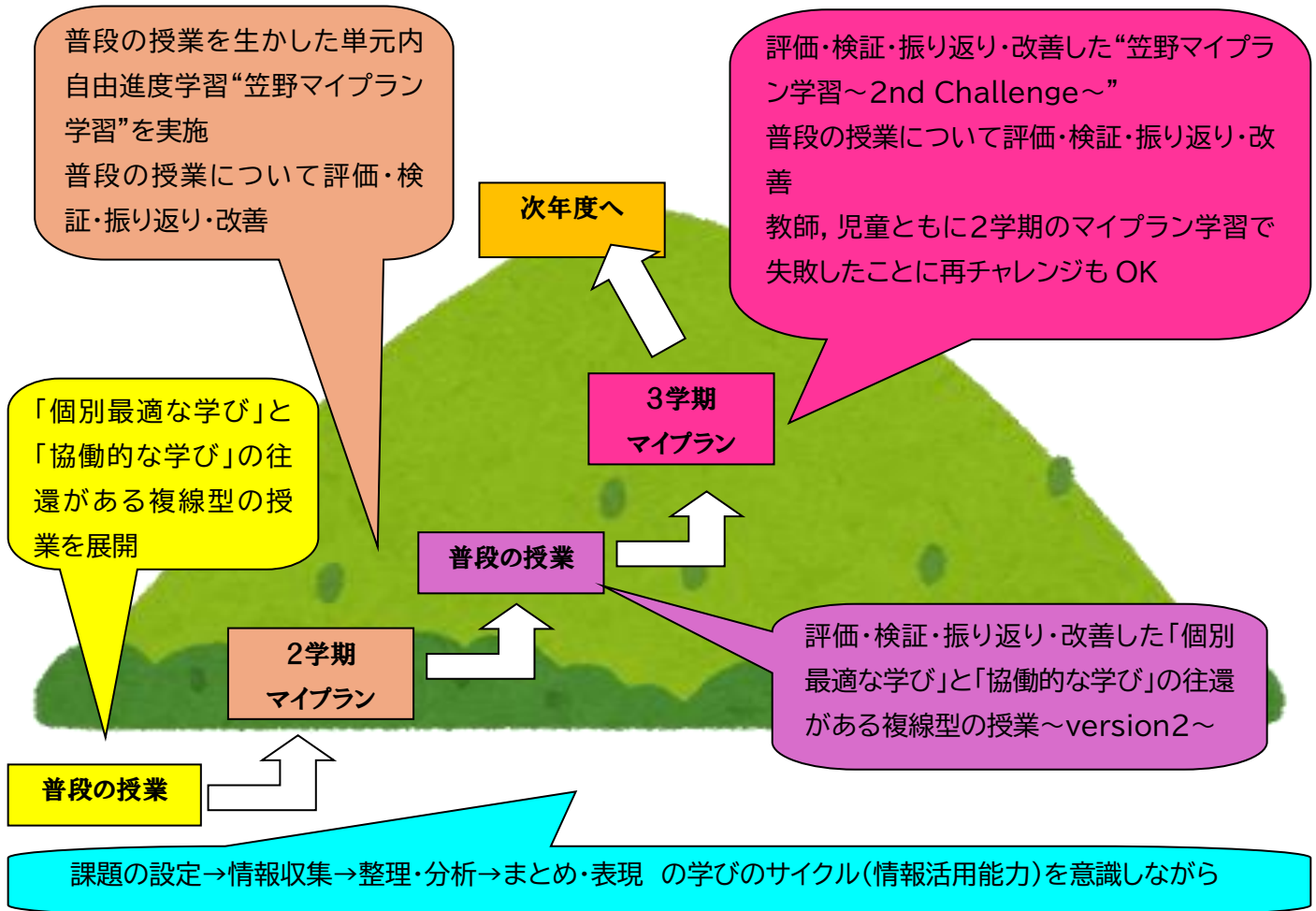
→ ①今年度、**教科は問わない**。先生方の得意を生かし、自己選択して実施。**②1教科は必ず実施**。2教科同時、3教科同時にチャレンジしたい先生は、大歓迎!一緒に学び合みましょう。

5. めざす子供主体の授業(イメージ)

☆ 普段の授業も笠野マイプラン学習も、同様のイメージで授業を構想しよう



☆年間を通した授業イメージ



2学期・3学期に実施予定の「笠野マイプラン学習(単元内自由進度学習)」で、児童が完全に自走していくことができるように、普通授業から児童に学びを委ねていくことが大切です。教師の「教える」を手放すには、児童にどんな力を付ければよいのか、児童の実態や各教科の付けたい力を踏まえて考え、教科横断的な視点も意識してみなさんで実践を積み上げていきましょう！！

6. めざす子供の姿について

「5. めざす子供主体の授業」達成のために、どんな力をつけていけばよいのか、研究主題及び金沢教育事務所「指導の重点」に沿って具体的な姿を発達段階に応じて下記の表にまとめた。

研究主題	低学年	中学年	高学年
主体的に学ぶ子	「～たい」という思いや願いをもち、取り組む姿	「～たい」という思いをもち、問題を解決しようとする姿	「～たい」という思いをもち、問題に向き合い、解決の見通しをもちながら取り組む姿
共に高め合う子	友達と関わり合って伝える楽しさを知り、自分なりの思いをもって、楽しく学ぶ姿	目的意識をもって友達と関わり合い、よりよいものを目指して協働的に解決しようとする姿	目的や意図をもって友達と関わり、新しい考えを生み出したり、問題を解決したりする姿
粘り強く表現する子	学んだことを相手に伝えることができるように、簡単な絵、図、文、端末等で表現している姿	学んだことを整理・分析し、教科の言葉を使ってまとめ、相手を意識してわかりやすく表現している姿	学んだことを整理・分析し、目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせ、教科の言葉を使って表現し、聞き手とのやり取りを含めて効果的に表現している姿
学びを委ねた時の児童の姿	「～たい」という思いや願いをもち、自分で決めて学びを進めようとしている姿	「～たい」という思いをもち、自分で選んだり、友達と協働したりして問題を解決しようとしている姿	「～たい」という思いをもち、自分で計画を立て、修正しながら課題に向き合い、自分で選んだり、友達と協働したりして解決しようとしている姿

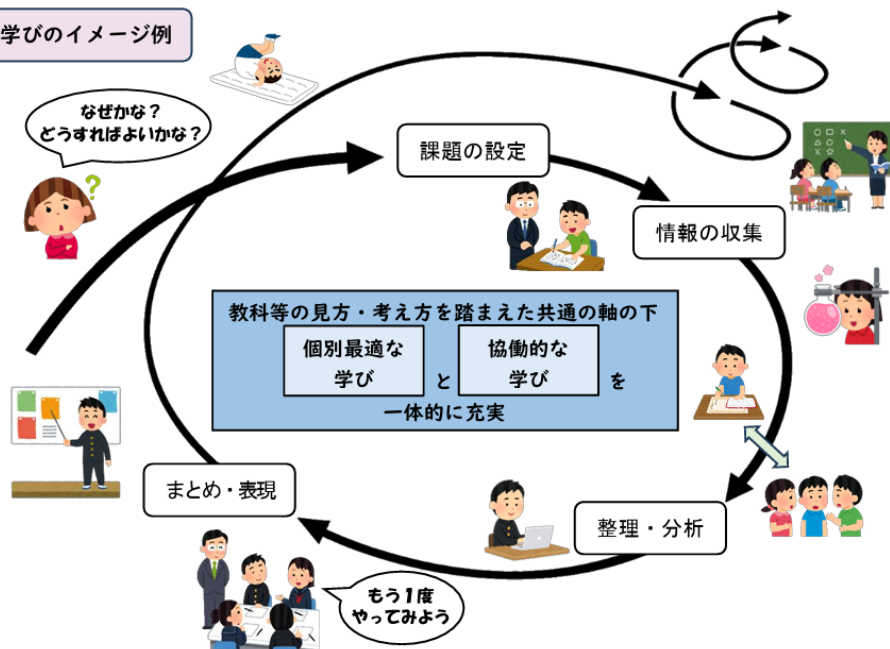
「笠野マイプラン学習」で付けたい力

**自己調整力・自分の学びを自分で語れる力
+1 教科等の資質・能力を確実に！**

教科横断的な視点(情報活用能力)を意識して

子供の学びのイメージ例	低学年	中学年	高学年
課題の設定	日常生活で経験したり感じたりしたことや想像したことから自分で課題を設定している姿	目的を意識して日常生活で経験したり感じたりしたことや想像したことから自分で課題を設定している姿	目的や意図に応じて、日常生活で経験したり感じたりしたことや想像したことから自分で課題を設定している姿
情報収集	身近なところから課題に関する情報を収集し、簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理している姿	調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見つけたり観点を決めた簡易なグラフ等を用いたりして情報を整理している姿	目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組み合わせながら情報を収集し、目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理している姿
整理・分析	情報の大体を捉え、分解・整理し、自分の言葉でまとめている姿	情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見出している姿	情報の傾向と変化を捉え、類似点や規則性を見つけ他との転用や応用を意識しながら問題に対する解決策を考察している姿
まとめ・表現	相手を意識し、わかりやすく表現している姿	表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じて、自他の情報を組み合わせて適切に表現している姿	目的や意図に応じて複数の表現方法を組み合わせる表現し、聞き手とのやりとりも含めて効果的に表現している姿
振り返り・改善	問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付いている姿	自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いかを考えている姿	情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を考えている姿

子供の学びのイメージ例



金沢教育事務所 指導の重点 資料より